

普通科の特色ある授業の紹介「地域の古文書を読み解く」【地歴科】

「記録」

12月11日（金）に行った3年普通科「選択日本史B」の授業で、萩原地域の古文書を読み解く授業を行いました。扱った古文書は、江戸時代末期の文久年間（1861～1863）に、萩原の役人が作成した「記録」で、萩原で起きた様々な出来事が記された興味深い資料です。今回の授業では、教室の窓から見える「諏訪の森」に稲荷神社が建立されるまでの経緯が記された箇所の翻刻（古文書のくずし字を現在使用されている文字にすること）を行いました。

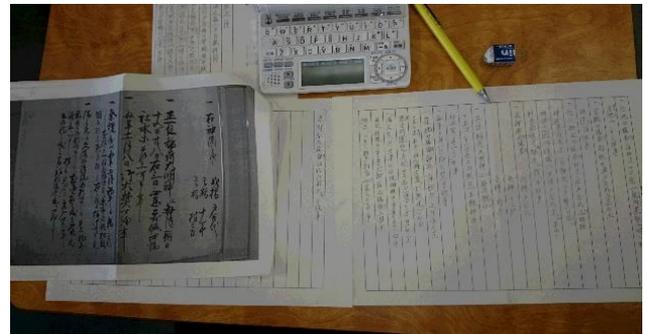


生徒たちは、担当教員の説明を聞きながら、熱心に古文書の解読に取り組みました。その結果、諏訪の森に稲荷神社が建立された年代（文久3（1863）年）や、かつて行われていた「御火焚おひたき」、「初午まつりはつうま」などの祭礼について知ることができました。

熱心に古文書を読み解く生徒たち



古文書の翻刻



また、12月14日（月）の授業では、「諏訪の森」周辺のフィールドワークを行いました。生徒たちは地図を片手に、古文書に登場した稲荷神社や萩原の実力者「戸谷権十郎」の旧宅跡を巡り、江戸時代の萩原に触れることができました。古文書の解読やフィールドワークを通じて、生徒たちは、江戸時代の地域社会に関する理解を深めるとともに、何気なく眺めている風景の中に奥深い歴史があることを知り、身近な地域に対する関心を高めました。

「下戸（下戸谷家）」周辺の見学



「諏訪の森」稲荷神社の見学



※授業で使用した「記録」は、下呂市ふるさと記念館が所蔵しています。今冬、下呂市ふるさと記念館では、企画展「江戸時代を記録する」が催されています。江戸時代の下呂市域の様子に興味がある方は足をお運びください。

（資料掲載 裁許済）

